

1年組番氏名

領域		問題番号			出題の意図	評価の観点			
		大問	小問	通番		聞く能力	書く能力	読む能力	言語事項
聞くこと	話すこと	一	一	1	どのような事実を,どのような順序で話しているかを正しく聞くことができる。				
			二	2	話し手の説明の仕方の工夫を考えながら聞くことができる。				
			三	3	事実と意見との関係を考えながら話の内容を正しく聞くことができる。				
			四	4	司会者の進め方の工夫を考えながら聞くことができる。				
読むこと		二	一	5	物語の展開に注意して,場面の状況を正しく理解しながら読むことができる。				
			二	6	文章における語句の意味を正しく理解しながら読むことができる。				
			三	7	物語の展開に注意して,登場人物の心情を正しく理解しながら読むことができる。				
			四	8	物語の展開に注意して,登場人物の心情を正しく理解しながら読むことができる。				
			五	9	表現の仕方や文章の特徴を正しく理解しながら読むことができる。				
			六	10	文章に表れているものの見方や考え方を正しく理解しながら読むことができる。				
書くこと		三		11	構成メモをもとに必要な情報を選び,伝えたい内容をまとめて書くことができる。				
言語事項	一	四	1	12	中学校1年生までに学習した漢字を正しく読むことができる。				
			2	13					
			3	14					
			4	15					
			5	16	小学校6年生までに学習した漢字を正しく書くことができる。				
			6	17					
			7	18					
			8	19					
			9	20					
			10	21					
	二	四	1	22	慣用的な表現を正しく使うことができる。				
			2	23	四字熟語を正しく理解して使うことができる。				
			3	24	漢字の画数を正しく理解している。				
	三	四	1	25	接続語を正しく使うことができる。				
			2	26	文の意味を考えて,適切な修飾語を使うことができる。				
			3	27	文の成分を正しく理解している。				
書くこと		五	一	28	資料から分かることを,主語・述語が整った文で書くことができる。				
			二	29	資料をもとに具体的な例や体験から自分の考えや理由をもち,決められた字数で書くことができる。				
						/4	/3	/6	/16

今後の学習に向けて *自分ががんばりたいところに○を付けたり,下線を引いたりしましょう。

	「聞くこと」の力を身に付けるために	・話し手の意図を考えながら聞く」「全体と部分,事実と意見の関係に注意して聞く」など,国語の授業で学習した聞き方について復習し,他教科の授業や毎日の生活で話を聞くときにも生かしましょう。 ・家庭においても,ニュース番組のキャスターや討論番組の司会者の話し方や進め方の工夫に注意して番組を見るようにするなど,効果的な話し方・聞き方を学習しましょう。
	「書くこと」の力を身に付けるために	・最初に,自分の考えをはっきりさせ,何を伝えるかを明確にしましょう。その上で,自分の考えを伝えるためには,どのような根拠を用いると効果的かを考え,ふさわしい根拠を選び出すことが大切です。説得力のある根拠とするには,自分の経験に基づくことが効果的です。さらに,話のまとまりごとに段落に分けて書くようにしましょう。 ・家庭においても,新聞のコラムの内容をまとめて感想を書き加えたり,毎日の生活の記録ノート等に体験と感想を書いたりして,日常的に事実と意見を書き分ける練習をしましょう。また,自分の国語のノートを見直し,学習した内容と自分の感想をまとめたりすることもよい学習です。
	「読むこと」の力を身に付けるために	・物語を読むときには,まず,あらすじをつかみましょう。そして,文章の展開に注意して,場面の状況や登場人物の心情の変化を考えながら読むことが大切です。その時,情景描写や心情描写の言葉に着目し,根拠となる表現をもとに想像するようにしましょう。また,国語の授業で,自分の考えを積極的に発言したり,仲間の考えと比べて聞いたりしながら,自分の考えを深めるようにしましょう。 ・家庭においても,読書の時間を作り,自分の好きな本をじっくり読みましょう。その時,内容面だけを楽しむのではなく,気になる表現や面白い部分などを見つけ,どんな表現の工夫があるのかを考えるようにしましょう。また,書かれていることについて自分の考えをもちたいものです。さらに,授業で学習した表現方法や着目するとよい表現については,ノート等に整理したり表にまとめたりして,その働きを理解しておきましょう。
	「言語についての知識」を身に付けるために	・漢字については,どこが間違っているかを明らかにし,正しい字で繰り返し練習することが大切です。また,読み方が分からない場合は辞典等で確かめたり,学習した漢字を使って書いたりする習慣を付けましょう。さらに,文の成分,同音異義語,接続語,慣用的な表現等については,教科書や辞典等を使って復習するとともに,本や新聞を読む時にも表現の仕方に注意することが大切です。 ・家庭においても,教科書に掲載されている漢字を繰り返し書いて覚えたり,新しく学習する教材の語句で意味が分からないものについては,事前に辞典を使って語句調べなどを行ったりしましょう。